

よしたけ 八福神めぐり



四月一八日土曜日、春のうららかな天候に恵まれて、「よしたけ八福神巡り」が行されました。吉留に古くからある神社を歩いて参拝するという、地域おこし事業の一環です。

吉武地区コミュニティと八之会(地域おこし団体)が共同で主催して行われました。事前に申し込みをした一七〇人と五〇人を超えるスタッフが集まりました。受付を済ませて、会員手づくりの根っこ部分のついた竹の杖と、御朱印帳とおむすび二個をいただき出発点の八所宮へ。ここから順に8箇所の神社を歩いて回る九キロメートルのウォーキングです。

神社の中には、本殿まで急な階段を上って行かなければならぬ場所や、次の神社まで歩く距離が長く、なかなか大変な箇所もありましたが、ところどころに置かれた案内板の墨書きの文字がやさしく、ユーモアがあふれる言葉で書かれて、疲れた身体も癒されます。木々に囲まれた山道では頭上から鶯うぐいすの声が聞こえたり、樹木に囲まれた緑色の池の傍を歩いたり、宗像市内でも特に自然が多く残されていると言われる吉留地域を歩いて、心も体も癒されました。



上：受付を済ませ、現人神社へ。御朱印帳、杖、おむすびを手に歩く。
右上：参加者の安全を願って祈願祭が拝殿で行われた。
：参加者に渡す御朱印帳と杖もお祓いを受ける。

宗像にもこんなに自然が残されてい
る事を実感できた1日となりました。



4. 妙見神社

食物の神様。



高天原に最初にあらわれた神様。神仏習合により「妙見さん」と親しまれる

ようになつた。(写真下)

鉄分を含んだ茶色
トルの妙見の滝がある。

1. 現人神社
あらひと
目、耳、肩、手足などの病気を治す神様。記帳をすませて次の安座神社へ。(写真下)



2. 安座神社
あんざ
安ノ倉の地名の元となつた神社。(写真下)



3. 豊日神社 とよひ

安ノ倉の地名の元となつた神社。(写真下)



2. 安座神社 あんざ



6. 菅原神社
すがわら
祭神は菅原道真。
「ヲンガミ」などとよばれていたが、天神(菅原)に改めた。(写真下)



上：神社の傍にある農家の納屋(なや)には、いろいろな形をした農作業の鍬(くわ)がかけあつた。

下：こいのぼりが泳いでいる道を下って平山天満宮へ。

7. 平山天満宮 ひらやまてんまんぐう

祭神は菅原道真。宗像大宮司・氏能が建立。社殿は宗像市指定文化財。鳥居の傍には福岡県指定天然記念物の大クスがある。

5. 豊日神社
とよひ
コースの中で一番の難所である。急な石段を随分のぼらなければならなかつた。(写真下)



街道を行きかう人や、地域の水飲み場として、祭神・水速女神が祀られている。八福神めぐりの最後の神社。



上：神社境内の木陰で休息をとり、出発点へ戻る。

右：水神社拝殿



8. 水神社



右：平山天満宮本殿
左上：お参りした後には、地域の方々による「おつかれさま」の声とお接待があり心がなごむ。
左下：参道には八重桜があざやかに咲いていた。

八所宮の神様も大勢の人々が元気に里歩く様子をご覧になり、喜ばれたのではないでしょうか。

秋には西回りコースが予定されています。

お問い合わせは吉武地区コミュニティセンターへ。



古田光信三日より、伊三郎といふ人の功績をたどる特別展が開催されました。期間中には大勢の来館者が訪れて、熱心にパネルに書かれた説明文を読む姿が見られ、好評の内に終了しました。

今年は生誕130周年に当たります。この特別展をふりかえり、あらためてその生涯と宗像とのつながりについて紹介します。



年3月24
平成27

展示場内では佐二氏が昭和56年に帰省した際、八所宮・緑風園・宗像大社参拝などの貴重な映像がテレビを使つて、放映されました。

また、平成27年RKB制作の「出光佐三と宗像大社」は好評で、氏の功績をたどり、アナウンサーが赤間小学校や宗像大社などを取材した映像が放映され、椅子に座つてゆっくり視聴する方が多く見られました。

郷宗像を誇りに思い、日本人として何を
なすべきかを考え、世界を視野に活躍し
た生涯でした。百田尚樹氏の著書『海賊
と呼ばれた男』の主人公は佐三氏をモ
デルにして書かれ、日本本屋大賞に選ば
れ話題になりました。

日本人にかえれ 出光佐三展 出航の地・宗像から世界へ 海の道むなかた館

2015年5月15日

1. 「日本人にかえれ」

これは佐三氏の有名な言葉です

現代は、「世界は一つに」とグローバル社会の様相を示す半面、環境破壊や、地域紛争など憂慮する問題が山積みです。このような現状において、日本人が

精神が必要で「日本人にかえれ」とい
フ氏の言葉は今、とても新鮮です。

りどころとして守り続けた宗教の神。故郷宗像を誇りに思い、日本人として何をなすべきかを考え、世界を視野に活躍した生涯でした。百田尚樹氏の著書『海賊

展示場内では佐々氏が昭和56年に帰省した際、八所宮、緑風園、宗像大社参拝などの貴重な映像がテレビを使って放映されました。

また、平成27年RKB制作の「出光三三三」が、良く二二二女を五五五、二二二刀を

「光佐三と宗像大社」は好評で、氏の功績をたどり、アナウンサーが赤間小学校を取材する。赤間小学校は、昭和二年三月に竣工して以来、今もなお、この地で多くの人々の心を守り続けている。

が多く見られました。

宗像市東部の山あいにある吉武地区。普段は農道を歩く人の姿もまばらな静かな地域である。

(記事..むなかた電子博物館運営委員 平松

のための予算獲得、勅祭社への昇格の建議などに取り掛かりました。

宗像神社は昭和44年(1969)に、宗像氏貞が再建して以来およそ400年ぶりとなる、昭和の大造営が行われ、昭和46年1月遷宮大祭が行われています。

その後、昭和52年(1977)宗教法人・宗像大社となり、平成26年(2014)、平成の遷宮が行われ、木々の緑に映える朱色が美しい、真新しい社殿になりました。



出光興産の本社はもちろん各施設には、宗像大社が建立され、工事の竣工の際には宗像大社から神職を招き神事を行っています。



宗像町名譽町民章
(昭和53年に当時の宗像町が佐三に送ったもの、未だ佐三1人)



右：ケースの中の「沖ノ嶋丸」150分の1の模型
左上：ジン常時置かれたといふ船鐘
左下：直筆の書が展示された「日本人」「人間尊重」「敬神愛人」



5. 館内の展示品

・タンカーの名称にある宗像の地名
造船されたタンカーには「沖ノ嶋丸」「大島丸」「赤間丸」「玄海丸」など宗像の地名を船名 にしています

人が担当しています。

出光興産が作成し保管するニュース

映像から宗像に関連するものを集めた
「出光ニュース」

「出光興産社員教育用映像」(抜粋)、

当時の大社宮司・葦津嘉之氏が佐三について語った映像も。

以上の貴重な3種類の映像が上映され、椅子も足りなくなるほどの盛況でした。

以上の貴重な3種類の映像が上映され、椅子も足りなくなるほどの盛況でした。

椅子も足りなくなるほどの盛況でした。

7. 入場者の感想

A 氏 ..

唐津から来たという高齢の方

今、小さな店で出光の石油を売つて
いる。父は門司の出光商会からの社員。戦時中はジャワへ行き終戦後に

帰ってきた。私達は先に上海から船に乗り引き揚げてきたが、その後出た船は沈没したと聞く。家には佐三氏直筆の書がある。

B 氏 ..

『海賊と呼ばれた男』を読んで、本物に触れてみたかった。

C 氏 ..

店主は雲の上の人でした。(沖ノ嶋丸の模型を見ながら) 佐世保重工まで見学に行つた。昔は4,500人の乗組員が動かし、今はコンピューターだ

の模型を見ながら) 佐世保重工まで見学に行つた。昔は4,500人の乗組員が動かし、今はコンピューターだ

出光興産が創業100年を記念して作成した「店主物語」。ナレーションは佐三氏の母・千代役として竹下景子さ

物 そつくりにできている。

D 氏 ..

修学旅行で東京へ行つた時、出光さんからとお菓子が配られた。

E 氏 ..

徳山工業高校の機械科の学生時代に、教室の窓から徳山湾に巨大な出光のタンカーが入つくるのが見えた。

F 氏 ..

出光佐三さんと宗像市の世界遺産登録推進活動が結び付くとは。今初めて知りました。

8. 結びのことば (バネル展示より)

佐三は「日本に生まれて最高に恵まれて育つた」というのが口癖だったと言います。彼の思想の原点は、ここ宗像にあるといつても過言ではありません。

宗像の歴史や風土、人々の気質、自然豊かな景色など、私達が日常目にし、耳にしていることは、まるで空気のように日ごろ意識することなく、当たり前となつています。

佐三の思想や行動力をふりかえることで、あらためて宗像の素晴らしさに気づくことができたのではないか。

出光佐三の意思を引き継ぎ、先人が残してくれた資産を大切にしながら、宗像人として、日本人として世界に貢献する。この企画展がそのきっかけとなれば幸いです。

宗像市では平成27年度より、教育子ども部 子ども育成課にグローバル人材



イベント会場・いせきんぐ宗像
(田熊石畠遺跡歴史公園)

運営協議会、田熊山笠実行委員会、主幹は、田熊石畠の会で地元に

オープニングセレモニーがはじまりました。主催者の挨拶に続いて楽しい楽器の演奏が行われました。

・来賓紹介 福岡県会議員、宗像市市会議員、福岡県文化財保護課、福岡教育大学など
・来賓挨拶代表して、福岡県教育庁総務部
・文化財保護課長兼副理事事が挨拶

7月19日 日曜日、真夏の厳しい暑さの中で、いせきんぐ宗像オープニングイベントが開催されました。いせきんぐ宗像とは、公募により選ばれた田熊石畠遺跡歴史公園の愛称で、遺跡の中の王様という意味が込められています。主催は宗像市、共催は東郷地区コミュニティ

いせきんぐ宗像 オープニングイベント

2015年10月14日

尚、本文は展示されたパネルの説明文および、むなかたタウンプレス（4月15日）より、参考、引用しています。
(記事・むなかた電子博物館運営委員 平松)

育成係が新設され、次世代を担う子ども達が、佐三氏のように世界を視野に活躍していくことを願っています。

開催期間中の入館者数は、およそ27000人。シアターの視聴者数はのべ4400人でした。

も達が、佐三氏のように世界を視野に活躍していくことを願っています。

ある東郷小学校は、全校生徒が参加してこのイベントを体験しました。

7月1日の歴史公園のオープンに伴つて、今年は公園内で東郷地区恒例の夏祭り東郷、田熊山笠の行事が計画され、いせきんぐ宗像オープニングイベントの前夜祭として、「夏祭り東郷2015」が行われました。出店は25店舗、集まつた人々はおよそ6500人で、夜遅くまで会場はお祭りの熱気で包まれていました。

午前10時からオープニングイベント、式典の始まりです。それに先立ち、アジア太平洋子ども会議に参加、宗像市でホームステイをしていたブータンの子どもたちによる演舞が行われました。幸福度世界一という国からやってきた子どもたちには、宗像はどういう意味で写ったのでしょうか。

7月19日 日曜日、真夏の厳しい暑さの中で、いせきんぐ宗像オープニングイベントが開催されました。いせきんぐ

宗像ジュニアブースによるファンファーレと演奏、線路は続くよどこまでも聖者の行進など



民俗衣装で踊るブータンの子どもたち

九州管楽合奏団 五重奏
・森のくまさん
・ずいずいずつころばし
・アメリカンバトロールなど
・楽器のお話

市民参加方ミュージカル
むなかた三女神記

古代人をイメージした
衣装で歌うまりこふんさん
とトーク

9月23日に行われる公演にむけて練習中のメンバーによる演舞
衣装で歌うまりこふんさん
わせ手拍子でノリノリ。



宗像ウインドアンサンブル
・勇気100%
・君の瞳に恋してる
・風になりたいなど



式典終了
宗像ジュニアブースによるファンファーレと演奏、線路は続くよどこまでも聖者の行進など



上：宗像市長挨拶
下：実行委員長挨拶（田熊石畠遺跡づくりの会会長）



左：西日本新聞宗像支局長・今井さん、
中央：古墳にコープン協会・伊藤理事長
右：まりこふん会長

司会者の制止の合図が無ければ延々と続き、楽しい時間はいつまでも終わらない

歌が終わりステージではトークショウが始まりました。出演はまりこふんさん、古墳にコープン協会理事長・伊藤壮さん、西日本新聞宗像支局長・今井知可子さんの3人です。トークは盛り上がり、たという事でした。



ユニークな名前のまりこふんさんは、「古墳にコープン協会」をつくり会長に就任、古墳をテーマに歌う日本でただ一人の古墳シンガーです。

厳しい暑さのなかで歌い終え、最後の曲になると舞台から降りて観客席を一周しながら歌い舞台に戻つて行きました。後でご本人聞いてみると、観客のみなさんの熱い声援に思わず舞台から降りてしまつたそうです。この暑さもステージにあがると感じなかつたという事でした。

むなかた日和

ほどでした。

後ほど今井さんに感想を聞くと、

「古墳から引き離されて博物館に展示されている埴輪をみるとかわいそうに思う」

「まず、現地へ行って古墳に会って自分の感性でうけとめる」

と言う。

こんな、まりこふんさんの感性に心打たれました。また会いたいひとですね！

いせきんぐミスティリー抽選会

「弥生人をさがし、クイズに答えて抽選券をゲットしよう」

園内で弥生人(貫頭衣を着て勾玉の首飾りをつけた)を見つけてクイズに答え、全問正解者は、1～3等があたる抽選券を受け取る。まちがつた方は4等以下があたる抽選券を受け取る。他にまりこふん賞が3本あり古墳グッズがあたる。

後程、ステージにて抽選会を開催し、村づくりの会山田村長とまりこふんさんが抽選を行った。

答えたのは親子づれが多く、はずれなしの子どもにやさしい抽選会でした。このほか園内では特設テントが設置され、多くの催しがありました。

歴史体験学習

福岡教育大学学生もボランティア実習としてで参加しました。

・原始機

手織りの機を使用。毛糸で縦糸と横糸を編んでコーススターをつくる。

・土器パズル

弥生土器の破片をつないで完成する作業が意外に難しい

・弓矢体験

広い芝生の上で、仮想ハンターになる。幼児には持ち方から指導。

大人気の弓矢体験には、子どもたちがひつきりなしにおとずれ、的のイノシシやシカをめがけて矢を放つ。

あたると大歓声が上がる。

・勾玉づくり

古代人の装身具・勾玉はやわらかくて削りやすい滑石をつかつて作

る。幼児にも人気がある。

世界遺産ブース

・ナギヒコシール

海人は刺青をしていたという魏志倭人伝から引用した紋様。水でシールを濡らして腕に張り付けます。



ナギヒコは『海の民宗像』(宗像市刊行)、に登場する宗像海人の子ども。



「どれにしようかな」

・日赤九州国際看護大学学生によるボランティア活動



上：聴診器による音を聞くコーナー
下：看護大学を紹介するコーナー

ボランティア学の実習として参加した大学生の感想は、

「イベントの開催は大変だと感じた。準備はもちろんのこと開催中のハブニングなど、予定通りに行かないことが多い難しいと思ったが、子ども達の笑顔をたくさん見ることができ、大変ながらも楽しさを感じた。機会があれば、是非参加したい。」

イベントには、福岡教育大学と日赤九州国際看護大学の学生68名が参加しました。

寄合い処

海の道むなかた館出張博物館 実物大に復元された弥生の銅剣を持つてみよう。細身の剣は見た目より重いと いう実感でした。



上：弥生時代の食事を再現したレプリカ
右：復元された銅剣のレプリカ

- ・史跡整備報告会
- 「市民と楽しむ歴史公園づくり」
- 宗像市文化財担当者
- 「整備報告会では、田熊石畠遺跡が日本の国になり立ちを解明するために重要な遺跡であることや弥生ムラを市民参加で楽しみながらつくり上げようといふ整備方針について、一般向けにわかりやすく説明していました。聴衆も熱心に耳を傾けていて、質疑応答もありまし

（記事・むなかた電子博物館運営委員 平松）

た。」

田熊山笠追い山

午後3時、イベントの最後は、勇壮な飾り山がいせきんぐ通りを走り抜ける田熊山笠の追い山です。

おりに

宗像市、東郷コミュニティ、大学、田熊石畠村づくりの会の連携によるイベントは終わりました。極暑にも負けずこの日の来園者はおよそ3200人、出店は16店舗。人も空気も暑かった1日が終わりました。来園者のみなさん、出店者の皆さんもお疲れ様でした。



2015年12月21日

秋・吉武 めぐり



八所宮で安全祈願祭



宮司によるお祓いが行われた

今春・4月18日に行われた「吉武八福神めぐり」が好評で、今回で2回目となる「秋・吉武八神佛めぐり」が、10月31日に行われました。

初秋の候、心地よい天候にめぐまれて、吉武、吉留、富地原地区の7.5キロメートルをおよそ3時間かけて10か所の神社や仏閣を巡りました。

吉武地区の地域おこし団体・八之会が主催し、吉武地区コミュニティの後援で行われました。

事前に参加申し込みを済ませた参加者が125人、お世話する地元のスタッフは50人ほどで、宗像市長をはじめ、県議、市議も参加しました。受付を済ませた後、



八所宮大駐車場に集まった参加者

「いざ行かん ゆきて まだ見ぬご利益に」

参加者全員の道中



右：番から9番までのお札
上左：子供たちにはスタンプラリー帳
上右：御朱印帖



下：楽しいイラスト入り地図を手に歩く

の安全を願い、神様の依代を設けて八所宮宮司により安全祈願が行われ、三々五々出発していました。

これに先立つて、10月24日には八所宮本殿で安全祈願祭がおこなわれ、地域おこし事業の安全と参加者に記念品として渡す、竹製の杖、御朱印帖、お福などのお祓いが行われています。

24日には八所宮本殿で安全祈願祭がおこなわれ、地域おこし事業の安全と参加者に記念品として渡す、竹製の杖、御朱印帖、お福などのお祓いが行われています。

八所宮境内にあるこの建物は宗像市指定の文化財です。1991年に保存修理が行われ、創建は宝暦3年(1753)で、江戸時代後期の趣を今に伝えていました。堂内に安置されている仏像は数体あります。本尊は十一面觀音立像で、鞍手町の長谷寺の觀音像との共通点が見られ、平安時代前期に作られたものと言われて

2番 長宝寺觀音堂（宮ノ尾地区）

秋季大祭は「八所宮のおくんち」として、

一時とぎれたもののおよそ300年続いています。深夜に行われる大名行列は莊厳で、一見の価値があります。



八所宮参道の石段



素朴な福知神社と末社

4番 福知神社（武本地区）

祭神はイザナギ、イザナミの命の子で、

穀、農耕の神様

です。



平家塚。建物の中に二位

は昭和の始めの生まれで、平家塚近くの我が家に嫁いで以来、草取りや建物の清掃を続けてこられた方です。

平清盛の妻二位の尼の墓といわれています。壇ノ浦の戦いで敗れ、8歳の安徳天皇を抱いて海に沈んでいきました。参加者を笑顔で迎えた麻生ウメ子さん

創立は白鳳時代674年。神代七代八柱の神をまつる、旧カ村の總鎮守府でした。鶴鶴山にあり、社叢は福岡県指定の天然記念物です。毎年10月第3土日に行われる

せきれいざん

しゃくそう

した。

さきれいざん

しゃくそう

した。

せきれいざん

は太郎坊神社とある



武丸の正助さん
は、江戸時代に孝
子として知られた
人。親孝行、弱者へ
のいたわり、助け
合いなど、庄助さ
んの行いは、現代
社会においてもお
手本となるもので
す。

疲れた体も応援
メッセージに励ま
されて、コースの
最後となる早川勇記念碑まで歩きます。

武丸の正助さん
は、江戸時代に孝
子として知られた
人。親孝行、弱者へ
のいたわり、助け
合いなど、庄助さ
んの行いは、現代
社会においてもお
手本となるもので
す。



正助廟



本堂

9番 正助廟（土師上地区）



上：目を引く鳥の彫刻
下：拝殿には、彩色も鮮やかな
彫刻

幕末から明治時代にかけて活躍した
早川勇は、薩長和解を提唱し、五卿西遷
に奔走しました。
晩年は東京に住み郷土の若者の育成に
尽力しました。



吉武コミセンの近くにある早川勇顕彰碑

吉武コミセン
の近くにある
早川勇顕彰碑
出発点の八
所宮大駐車場
へ帰着後、そ
れぞれに解散
しました。

これからも、地域の行事や活動に子ども
たちがどう関わることができるかを、学
校でも考えていくたいと思います。」

「宗像市には歴史ある神社仏閣が多く
あります。地域おこしの一環として開
催されたこのウォーキングは、心身に心
地よいものでした。また、福をよんでも、
明日からの活動が楽しいものとなれば
いいですね。」

10番 早川勇記念碑

「セカンドスクール」が行われました。
妙見の滝→八所宮→長宝寺→大日堂→
新立山登山→平山天満宮と歩き、グロー
バルアリーナで一泊しました。

実は八福神佛めぐりに学校も何か協力
できなかと想っていた時に、地域の方
から、コース途中の看板のメッセージを
子どもたちに書いてもらえないか?と
いう依頼が寄せられました。そこで、セ
カンドスクールで校区を巡った後に、自
分だったらどんな励ましの言葉をもら
いたいか考えさせ、当日の応援メッセージ
ができました。

吉武地区
の地域の行事や活動に子ども
たちがどう関わることができるかを、学
校でも考えていくたいと思ひます。」

山間にある吉武地区は、宗像市の水源
である釣川源流があるところです。また、
それぞれの地域には人々が守り伝えて
きた神社やお寺が、素朴な姿のまま残さ
れています。地域おこしの一環として開

催されたこのウォーキングは、心身に心
地よいものでした。また、福をよんでも、
明日からの活動が楽しいものとなれば
いいですね。

お問い合わせ

吉武地区コミュニティ 電話 32-590

（記事：むなかた電子博物館運営委員 平松）

「八福神佛めぐりが行われる2週間前
の10月15、16日に吉武小学校では

吉武小学校校長

吉武小学校校長